

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **07074806 A**(43) Date of publication of application: **17.03.95**

(51) Int. Cl.

H04M 1/03**H04M 1/00****H04Q 7/32****H04Q 7/38**(21) Application number: **05159622**(22) Date of filing: **29.06.93**

(71) Applicant:

mitsubishi electric corp

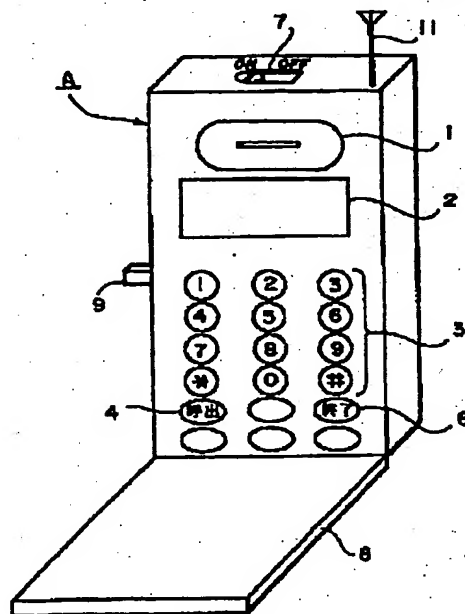
(72) Inventor:

**KOSAKA MASUNORI
SHIRAI KATSUTOSHI****(54) PORTABLE TELEPHONE SET****(57) Abstract**

PURPOSE: To hold an answer to an incoming even when a flip is opened by not entering a call start mode immediately even when the flip is opened and holding the answer to the incoming through the operation of an end button.

CONSTITUTION: A flip opening and call start button 9 functions as a button for opening the flip 8 or as a call start button when the flip 8 is open. When there is the incoming while the flip 8 is closed, the flip 8 is opened once the user presses the flip opening and call start button 9. Then the line is connected with the button 9 pressed. When an end button 9 is pressed with the flip 8 open, answer holding operation is started. Then when the flip opening and call start button 9 is pressed, the answer holding operation is quit and the telephone call can be started. With the end button 6 pressed during the answer holding operation, the call is discarded and waiting operation is entered.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-74806

(43) 公開日 平成7年(1995)3月17日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/03	A			
1/00	N			
H 0 4 Q 7/32		9297-5K	H 0 4 B 7/ 26	V
		7304-5K		1 0 9 C
審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願平5-159622

(22) 出願日 平成5年(1993)6月29日

(71) 出願人 000006013

三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

(72) 発明者 小坂 益規

尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三菱電機
株式会社通信機製作所内

(72) 発明者 白井 勝利

尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三菱電機
株式会社通信機製作所内

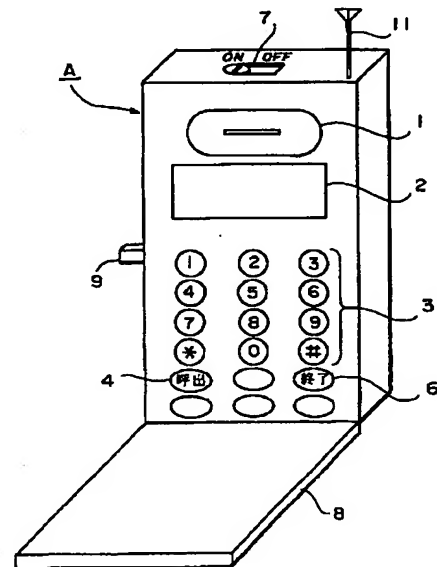
(74) 代理人 弁理士 田澤 博昭 (外1名)

(54) 【発明の名称】 携帯電話機

(57) 【要約】

【目的】 着信に対する応答を保留可能にし、かつ発信、着信、通話を容易、迅速に行えるようにする。

【構成】 電話機本体Aに、着信時に1回目の操作をすることによりフリップ8を開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタン9と、該フリップ開放兼用通話開始ボタン9の上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタン6とを設ける。



- 1: 受話器
2: 表示部
3: 数字ボタン
4: 呼出ボタン
5: 終了ボタン
6: 終了ボタン
7: 電源スイッチ
8: フリップ
9: フリップ開放兼用
通話開始ボタン
A: 電話機本体

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることにより上記フリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項2】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることにより上記フリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を上記表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項3】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を上記表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項4】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記フリップにより覆われない位置の電話機本体上に、予め登録されたメモリダイヤルの呼び出しに続く通話開始操作によって、相手方の音声を上記受話器に出力可能にするワンタッチダイヤルボタンを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、電話機本体に対して開閉自在のフリップを設けた携帯電話機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】図6は従来の携帯電話機を示す外観図であり、図において、Aは電話機本体、1は電話機本体Aに設けられて相手方音声を聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部、3はダイヤル操作等を

2

するための数字ボタン、4は電話番号を呼び出すときに押下する呼出ボタン、5は電話を発信するとき、また、着信時に電話を受けるときに押下する発信ボタンである。

【0003】また、6は通話を終了するときを押下する終了ボタン、7は電源をオン、オフするための電源ボタン、8は着信時に電話機本体Aに対して開くだけで通話を開始し、また通話終了時に閉じると電話が切れ、待ち受け状態に戻るフリップである。

【0004】次に動作について説明する。まず、かかる携帯電話機の使用に当っては、相手の電話番号を呼び出すために、アンテナ11を伸ばし、さらにフリップ8を開き、電源ボタン7をオン操作する。次に、フリップ8によって開かれた電話機本体A上の呼出ボタン4を操作し、さらに数字ボタン3をダイヤル操作（ブッシュ操作）し、表示部2で番号確認を行った上で、発信ボタン5を操作する。

【0005】こうすることにより、電話機本体Aは相手の電話番号を呼出信号として相手電話機へ送信し、相手はその呼出信号を受信して受話器をフックオンすることにより、その相手との通話を開始可能にする。また、メモリダイヤルに登録した電話番号を呼び出す場合には、呼出ボタン4を操作した後、その登録した電話番号の短縮されたメモリ番号を数字ボタン3などを用いて入力し、続いて発信ボタン5を操作することで、初めて通話可能なモードとなる。

【0006】一方、フリップ8が閉じられている状態で相手方から電話の呼び出しがあると、つまり着信音があった場合には、そのフリップ8の開放操作によって、直ちに自動的に通話状態に入ることができる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】従来の携帯電話機は以上のように構成されているので、フリップ8が閉じているときに着信したとき、フリップ8を開けると、自動的に通話状態になるため、その着信に対する応答保留、すなわち、着信に対して携帯電話機の操作者がすぐに応答できない状態にある時に、一時的に通話開始を保留し、後に通話開始を可能にする機能ボタンの押下により通話を開始するという機能を実現できないなどの問題点があった。

【0008】また、待ち受け時には、フリップ8を閉じた状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、まず、フリップ8を開け、さらに、呼出ボタン4と数字ボタン3の組み合わせでメモリダイヤルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタン5を押下する必要があるなどの問題点があった。

【0009】さらに、従来の携帯電話機では、電源オフの状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、電源をオンにするための電源ボタン7をまず操作し、呼出ボタン4と数字ボタン3の組み合わせでメモリダイ

ルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタン5を押下する必要があるなどの問題点があった。

【0010】また、従来の携帯電話機ではフリップ8を閉じると終了ボタン6を押下したのと同じ効果を奏するので、フリップ8を閉じたまま、受話器1から相手方の音声聞くことはできないなどの問題点があった。

【0011】請求項1の発明は以上のような問題点を解消するためになされたものであり、フリップを開けても、着信に対する応答を保留することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0012】請求項2の発明は同一ボタンの2回目の操作のみでフリップを閉じた状態から特定の電話番号に対して発信し、かつ通話することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0013】請求項3の発明は電源オンの操作と1つのボタン操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0014】請求項4の発明はフリップを閉じたまま相手方の音声聞くことができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0015】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることによりフリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けたものである。

【0016】請求項2の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることによりフリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けたものである。

【0017】請求項3の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けたものである。

【0018】請求項4の発明に係る携帯電話機は、フリップにより覆われない位置の電話機本体上に、予め登録されたメモリダイヤルの呼び出しに続く通話開始操作によって、相手方の音声を上記受話器に出力可能にするワンタッチダイヤルボタンを設けたものである。

【0019】

【作用】請求項1の発明における携帯電話機は、フリッ

プを開けても直ちに通話開始モードとせず、終了ボタンの操作によって着信に対する応答を保留可能にする。

【0020】請求項2の発明における携帯電話機は、同一のフリップ開放兼用通話開始ボタンの2回目の操作によって、フリップを閉じた状態から特定の電話番号に対し発信および通話を可能にする。

【0021】請求項3の発明における携帯電話機は、電源スイッチの操作および通話開始ボタンの操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信を行えるようにする。

【0022】請求項4の発明における携帯電話機は、ワンタッチダイヤルボタンの操作によって、相手方の音声をフリップを閉じたまま出力可能とする。

【0023】

【実施例】実施例1. 以下、請求項1の発明の実施例を図について説明する。図1において、Aは電話機本体、1は電話機本体1に設けられて相手方音声聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部、3はダイヤル操作等をするための数字ボタン、4は電話番号を呼び出すときに押下する呼出ボタンである。

【0024】また、6は通話を終了するときに押下する終了ボタン、7は電源ボタンまたは等価な機能を有するスライドスイッチである。この実施例では電源スイッチとする。9はフリップ8を開けるボタンであるとともに、フリップ8が開いているときには開始ボタンとして機能するフリップ開放兼用通話開始ボタンである。

【0025】次に動作について図2のフローチャートに沿って説明する。まず、フリップ8を閉じた状態で着信があったときには、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると(ステップST202)、フリップ8が開く(ステップST203)。ここで終了ボタン6を押下すると(ステップST204)、応答保留動作に入り(ステップST207)、再びフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると(ステップST205)、通話が開始可能となる(ステップST206)。

【0026】一方、上記のような応答保留動作中に(ステップST207)、フリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると、応答保留を解除して、通話が開始可能となる(ステップST206)。また、上記応答保留動作中に再び終了ボタン6を押下すると(ステップST209)、通話が放棄され(ステップST210)、待ち受け動作に入る(ステップST211)。

【0027】実施例2. 図3は請求項2の発明を実施するフローチャートである。ここでは携帯電話機における待ち受け中にフリップ8を閉じた状態から、特定の電話番号へ発信する時の動作を説明する。待ち受け中において、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると(ステップST302)、フリップ8が開く(ステップST303)。

【0028】この時に、予めフリップ8が開いたときに

かける電話番号（これをフリップ開時ダイヤルと呼ぶ）が設定されていれば（ステップST304）、その番号を表示部2に表示し（ステップST305）、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST306）、そのダイヤルの発信動作を行う（ステップST307）。

【0029】もし、使用者が上記ダイヤル表示の時に、フリップ開放兼用通話開始ボタン9以外のボタンを押下した場合には（ステップST308）、押下されたボタンに割り当てられた機能を実行し（ステップST309）、フリップ開時ダイヤルに対する発信は行わない。

【0030】また、フリップ開時に上記ダイヤルの設定がなされていなければ、ボタン入力待ちになり（ステップST310）、一般の待ち受け動作時のボタン入力待ちと同じになる。

【0031】実施例3。図4は請求項3の発明を実施するフローチャートである。ここでは、電源投入時に指定された番号を表示し、発信までの操作を容易にする。まず、電源投入時に、予め発信先として登録されている電話番号（これを投入時ダイヤルと呼ぶ）が設定されているか否かを調べ（ステップST402）、設定されているならばその番号を表示部2に表示する（ステップST403）。

【0032】そこで、その番号を使用者が確認して、上記フリップ開放兼用通話開始ボタンに代わる通話開始ボタンを押下すると（ステップST404）、投入時ダイヤルに対して発信する（ステップST405）。また、ステップST402において投入時ダイヤルが設定されていなければ、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0033】また、ステップST403の投入時ダイヤルの表示に対して使用者が通話開始ボタン以外のボタンを押下した場合は（ステップST407）、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0034】実施例4。図5は請求項4の発明の実施例を示す携帯電話機の外観図である。これは、フリップ8を閉じた状態で、相手方の音声聞くことのできるものであり、10は1回の押下で、そこに登録されているメモリダイヤルの呼び出しを可能にするワンタッチダイヤルボタンであり、フリップ8が閉じた状態でも押下できるように配置される。

【0035】これによれば、いま例えば、天気予報の番号が既にワンタッチダイヤル10に登録されているとすると、電源スイッチ7がオンの位置にあり、かつフリップ8が閉じた状態にある時に、ワンタッチダイヤル10を押下することにより、天気予報に自動ダイヤルがなされ、通話が開始される。

【0036】その時に受話器1からはフリップ8を閉じているにも関わらず相手方の音声聞くことができる。ここで、通話を止めるには終了ボタン6を押下すればよ

い。

【0037】なお、上記実施例3の電源投入時にメモリダイヤルを呼び出す機能に関しては、フリップ8を有しない携帯電話機においても同様の効果を奏することは言うまでもない。

【0038】

【発明の効果】以上のように、請求項1の発明によれば、電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることによりフリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けるように構成したので、着信時に1つのボタンの2回押下で、通話開始モードへ迅速に導入でき、また、1回押下のあと終了ボタンの押下により、着信の応答を保留できるものが得られる効果がある。

【0039】請求項2の発明によれば、電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることによりフリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けるように構成したので、予めよくかける電話番号をフリップ開時ダイヤルに登録しておくだけで、フリップが閉じた状態におけるフリップ開放兼用通話開始ボタンの2回押下により、フリップの開動作と登録された番号への発信が容易、迅速に行えるものが得られる効果がある。

【0040】請求項3の発明によれば、電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けるように構成したので、予めよくかける電話番号を投入時ダイヤルに登録しておくだけで、電源がオフの状態における電源投入動作と開始ボタンの押下のみで、登録された番号への発信を容易、迅速に行えるものが得られる効果がある。

【0041】請求項4の発明によれば、フリップにより覆われない位置の電話機本体上に、予め登録されたメモリダイヤルの呼び出しに続く通話開始操作によって、相手方の音声を上記受話器に出力可能にするワンタッチダイヤルボタンを設けるように構成したので、天気予報を聞くときなどにおいて、相手方に対して携帯電話機側の音声を伝える必要がないとき、フリップを閉じたまま情報を聞くことができるものが得られる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1～請求項3の発明の実施例による携帯電話機の基本構成を示す外観図である。

【図2】請求項1の発明の実施例における携帯電話機の着信時の動作を示すフローチャートである。

7

8

【図3】請求項2の発明の実施例における携帯電話機の発信動作を示すフローチャートである。

【図4】請求項3の発明の実施例における携帯電話機他の発信動作を示すフローチャートである。

【図5】請求項4の発明の実施例による携帯電話機を示す外観図である。

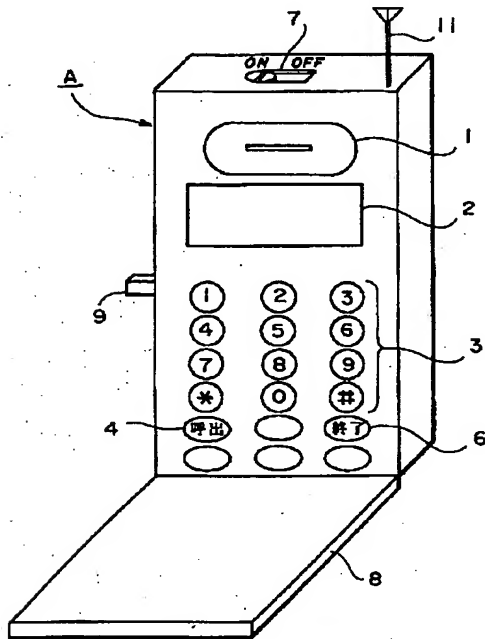
【図6】従来の携帯電話機を示す外観図である。

【符号の説明】

1 受話器

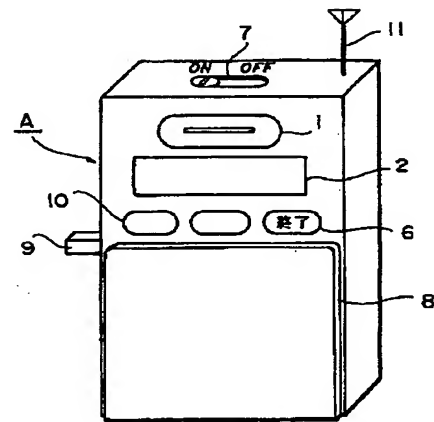
- * 2 表示部
3 数字ボタン
4 呼出ボタン
6 終了ボタン
7 電源スイッチ
8 フリップ
9 フリップ開放兼用通話開始ボタン
10 ワンタッチダイヤルボタン
* A 電話機本体

【図1】



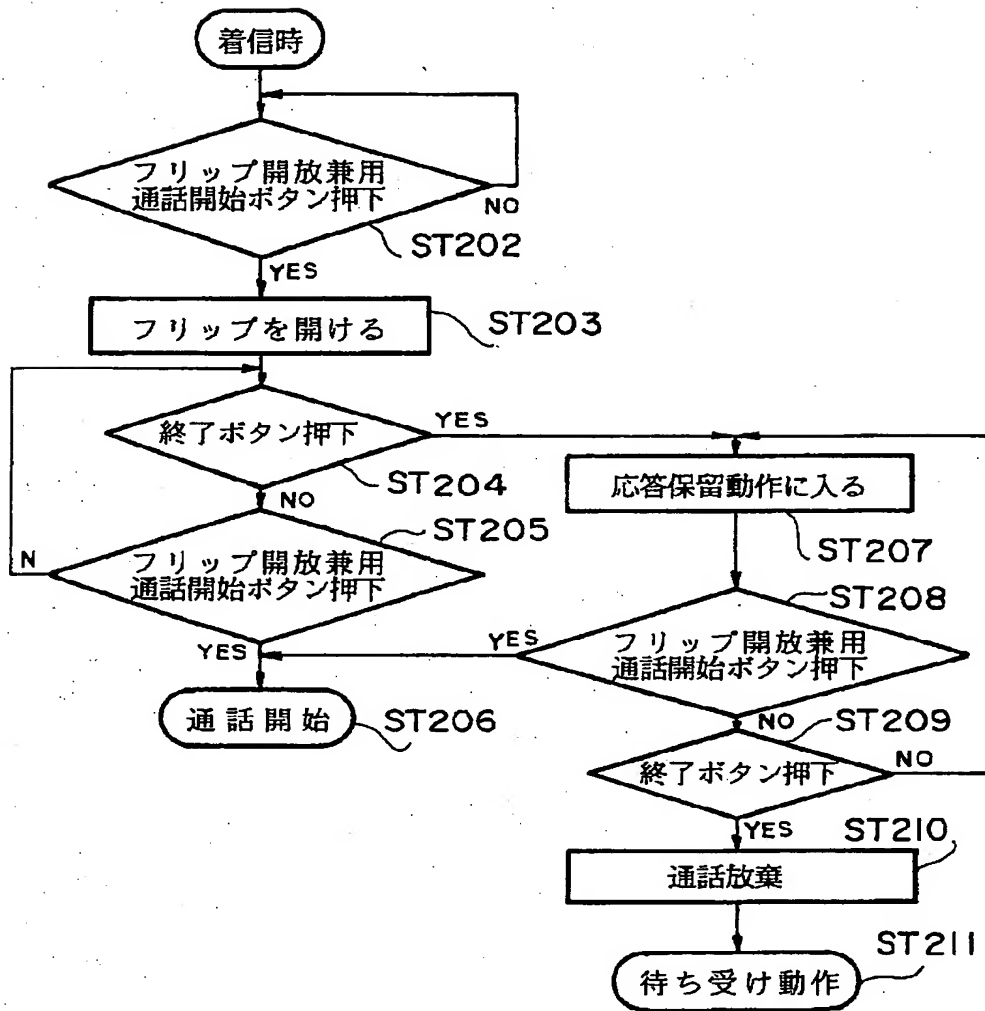
- | | |
|----------|--------------------|
| 1: 受話器 | 7: 電源スイッチ |
| 2: 表示部 | 8: フリップ |
| 3: 数字ボタン | 9: フリップ開放兼用通話開始ボタン |
| 4: 呼出ボタン | 10: ワンタッチダイヤルボタン |
| 6: 終了ボタン | A: 電話機本体 |

【図5】

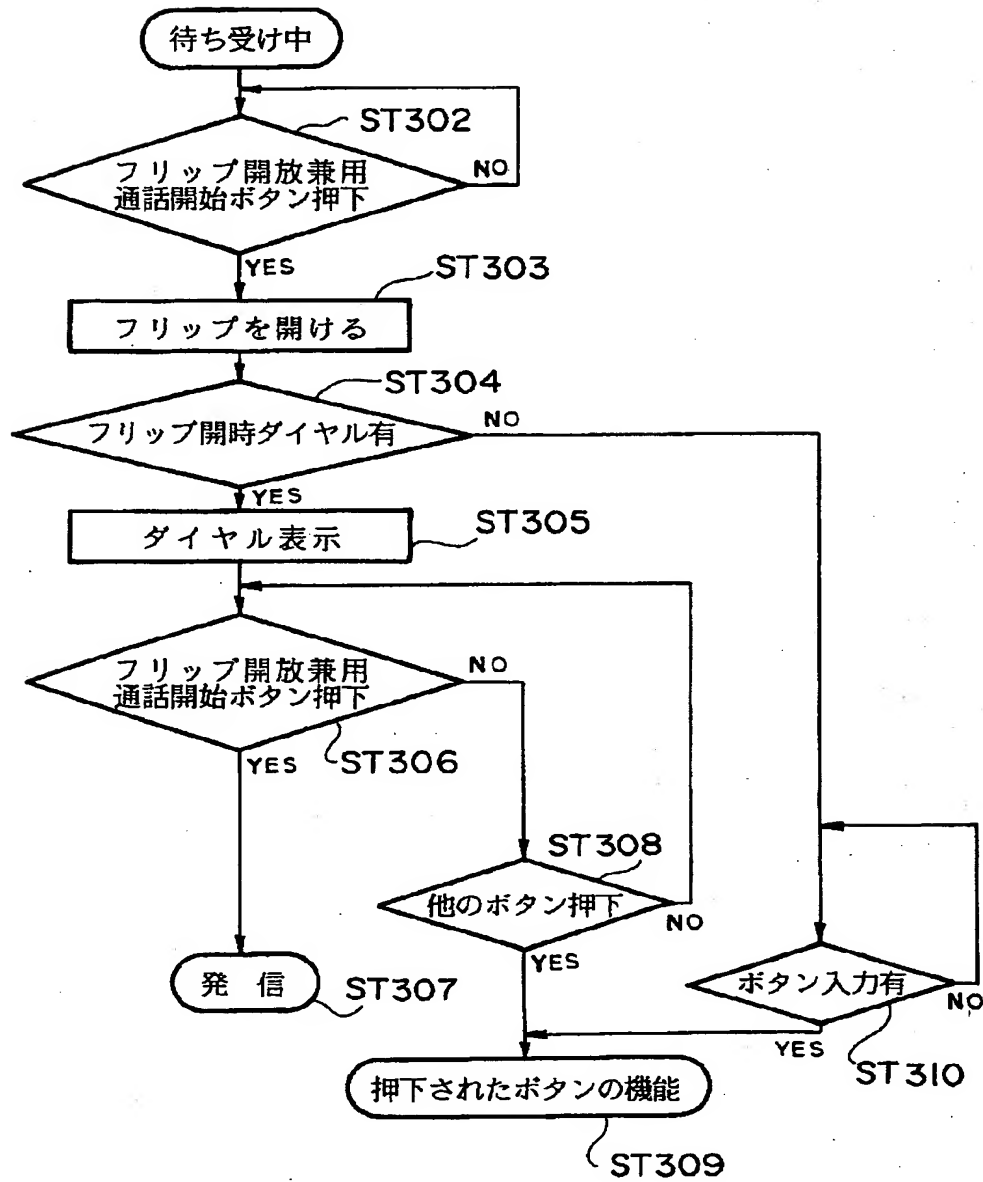


10: ワンタッチダイヤルボタン

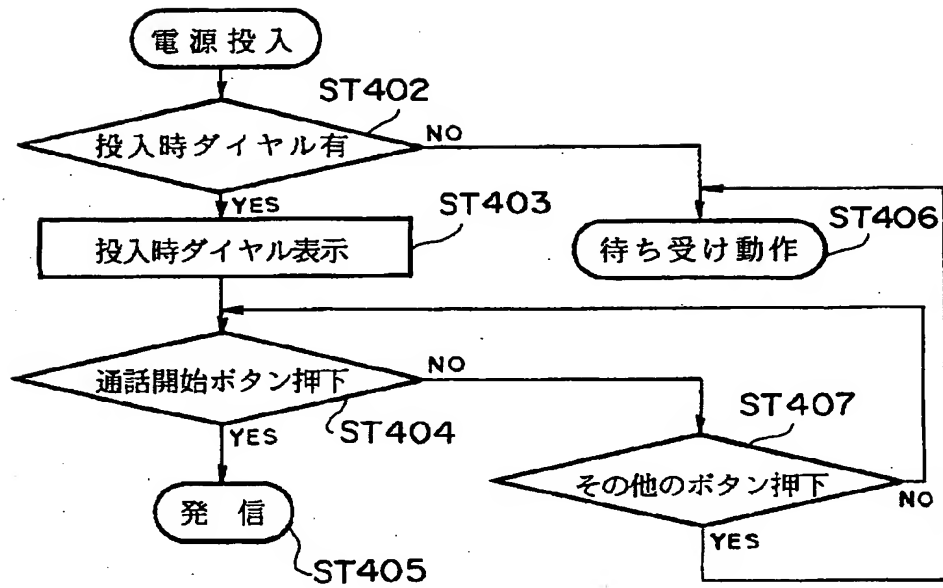
【図2】



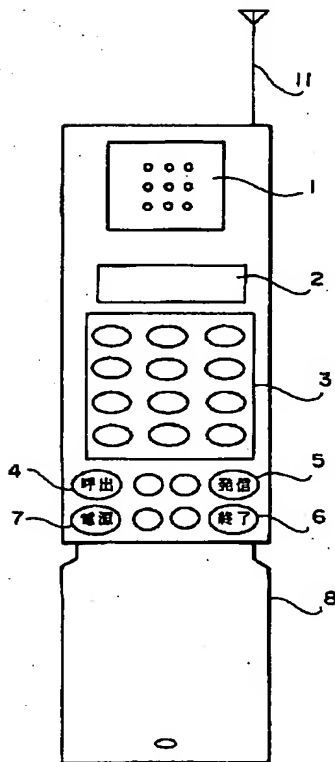
【図3】



【図4】



【図6】



【手続補正書】

【提出日】平成6年2月1日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】携帯電話機

【特許請求の範囲】

【請求項1】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることにより上記フリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項2】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることにより上記フリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を上記表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項3】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を上記表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、電話機本体に対して開閉自在のフリップを設けた携帯電話機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】図5は従来の携帯電話機を示す外観図であり、図において、Aは電話機本体、1は電話機本体Aに設けられて相手方音声を聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部、3はダイヤル操作等を

するための数字ボタン、4は電話番号を呼び出すときに押下する呼出ボタン、5は電話を発信するとき、また、着信時に電話を受けるときに押下する発信ボタンである。

【0003】また、6は通話を終了するときに押下する終了ボタン、7は電源をオン、オフするための電源スイッチ、8は着信時に電話機本体Aに対して開くだけで通話を開始し、また通話終了時に閉じると電話が切れ、待ち受け状態に戻るフリップである。

【0004】次に動作について説明する。まず、かかる携帯電話機の使用に当っては、相手の電話番号を呼び出すために、アンテナ11を伸ばし、さらにフリップ8を開き、電源スイッチ7をオン操作する。次に、フリップ8によって開かれた電話機本体A上の数字ボタン3をダイヤル操作（ブッシュ操作）し、表示部2で番号確認を行った上で、発信ボタン5を操作する。

【0005】こうすることにより、電話機本体Aは相手の電話番号を呼出信号として相手電話機へ送信し、相手がその呼出信号を受信して受話器1をオフフックすることにより、その相手との通話を開始可能にする。また、メモリダイヤルに登録した電話番号を呼び出す場合には、呼出ボタン4を操作した後、その登録した電話番号の短縮されたメモリ番号を数字ボタン3などを用いて入力し、続いて発信ボタン5を操作することで、初めて通話可能なモードとなる。

【0006】一方、フリップ8が閉じられている状態で相手方から電話の呼び出しがあると、つまり着信音があった場合には、そのフリップ8の開放操作によって、直ちに自動的に通話状態に入ることができる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】従来の携帯電話機は以上のように構成されているので、フリップ8が閉じているときに着信したとき、フリップ8を開けると、自動的に通話状態になるため、その着信に対する応答保留、すなわち、着信に対して携帯電話機の操作者がすぐに応答できない状態にある時に、一時的に通話開始を保留し、後に通話開始を可能にする機能ボタンの押下により通話を開始するという機能を実現できないなどの問題点があった。

【0008】また、待ち受け時には、フリップ8を閉じた状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、まず、フリップ8を開け、さらに、呼出ボタン4と数字ボタン3の組み合わせでメモリダイヤルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタン5を押下する必要があるなどの問題点があった。

【0009】さらに、従来の携帯電話機では、電源オフの状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、電源をオンにするための電源スイッチ7をまず操作し、呼出ボタン4と数字ボタン3の組み合わせでメモリダイ

ヤルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタン5を押下する必要があるなどの問題点があった。

【0010】請求項1の発明は以上のような問題点を解消するためになされたものであり、フリップを開けても、着信に対する応答を保留することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0011】請求項2の発明は同一ボタンの2回目の操作のみでフリップを閉じた状態から特定の電話番号に対して発信し、かつ通話することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0012】請求項3の発明は電源オンの操作と1つのボタン操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることによりフリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けたものである。

【0014】請求項2の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることによりフリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けたものである。

【0015】請求項3の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けたものである。

【0016】

【作用】請求項1の発明における携帯電話機は、フリップを開けても直ちに通話開始モードとせず、終了ボタンの操作によって着信に対する応答を保留可能にする。

【0017】請求項2の発明における携帯電話機は、同一のフリップ開放兼用通話開始ボタンの2回目の操作によって、フリップを閉じた状態から特定の電話番号に対して発信および通話を可能にする。

【0018】請求項3の発明における携帯電話機は、電源スイッチの操作および通話開始ボタンの操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信を行えるようにする。

【0019】

【実施例】実施例1. 以下、請求項1の発明の実施例を

図について説明する。図1において、Aは電話機本体、1は電話機本体Aに設けられて相手方音声を聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部、3はダイヤル操作等をするための数字ボタン、4は電話番号を呼び出すときに押下する呼出ボタンである。

【0020】また、6は通話を終了するときに押下する終了ボタン、7は電源スイッチまたは等価な機能を有するスライドスイッチである。この実施例では電源スイッチとする。9はフリップ8を開けるボタンであるとともに、フリップ8が開いているときには開始ボタンとして機能するフリップ開放兼用通話開始ボタンである。

【0021】次に動作について、図2のフローチャートに沿って説明する。まず、フリップ8を閉じた状態で着信があったときには、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST202）、フリップ8が開く（ステップST203）。ここで終了ボタン6を押下すると（ステップST204）、応答保留動作に入り（ステップST207）、フリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST205）、通話が開始可能となる（ステップST206）。

【0022】一方、上記のような応答保留動作中に（ステップST207）、フリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると、応答保留を解除して、通話が開始可能となる（ステップST206）。また、上記応答保留動作中に再び終了ボタン6を押下すると（ステップST209）、通話が放棄され（ステップST210）、待ち受け動作に入る（ステップST211）。

【0023】実施例2. 図3は請求項2の発明を実施するフローチャートである。ここでは携帯電話機における待ち受け中にフリップ8を閉じた状態から、特定の電話番号へ発信する時の動作を説明する。待ち受け中において、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST302）、フリップ8が開く（ステップST303）。

【0024】この時に、予めフリップ8が開いたときにかける電話番号（これをフリップ開時ダイヤルと呼ぶ）が設定されていれば（ステップST304）、その番号を表示部2に表示し（ステップST305）、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST306）、そのダイヤルの発信動作を行う（ステップST307）。

【0025】もし、使用者が上記ダイヤル表示の時に、フリップ開放兼用通話開始ボタン9以外のボタンを押下した場合には（ステップST308）、押下されたボタンに割り当てられた機能を実行し（ステップST309）、フリップ開時ダイヤルに対する発信は行わない。

【0026】また、フリップ開時に上記ダイヤルの設定がなされていない場合は、ボタン入力待ちになり（ステップST310）、一般の待ち受け動作時のボタン入力待ちと同じになる。

【0027】実施例3. 図4は請求項3の発明を実施するフローチャートである。ここでは、電源投入時に指定された番号を表示し、発信までの操作を容易にする。まず、電源投入時に、予め発信先として登録されている電話番号（これを投入時ダイヤルと呼ぶ）が設定されているか否かを調べ（ステップST402）、設定されているならばその番号を表示部2に表示する（ステップST403）。

【0028】そこで、その番号を使用者が確認して、上記フリップ開放兼用通話開始ボタン9に代わる通話開始ボタンを押下すると（ステップST404）、投入時ダイヤルに対して発信する（ステップST405）。また、ステップST402において投入時ダイヤルが設定されていない場合は、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0029】また、ステップST403の投入時ダイヤルの表示に対して使用者が通話開始ボタン以外のボタンを押下した場合は（ステップST407）、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0030】なお、上記実施例3の電源投入時にメモリダイヤルを呼び出す機能に関しては、フリップ8を有しない携帯電話機においても同様の効果を奏することは言うまでもない。

【0031】

【発明の効果】以上のように、請求項1の発明によれば、電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることによりフリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けるように構成したので、着信時に1つのボタンの2回押下で、通話開始モードへ迅速に導入でき、また、1回押下のあと終了ボタンの押下により、着信の応答を保留できるものが得られる効果がある。

【0032】請求項2の発明によれば、電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることによりフリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けるように構成したので、予めよくかける電話番号をフリップ開時ダイヤルに

登録しておくだけで、フリップが閉じた状態におけるフリップ開放兼用通話開始ボタンの2回押下により、フリップの開動作と登録された番号への発信が容易、迅速に行えるものが得られる効果がある。

【0033】請求項3の発明によれば、電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けるように構成したので、予めよくかける電話番号を投入時ダイヤルに登録しておくだけで、電源がオフの状態における電源投入動作と開始ボタンの押下のみで、登録された番号への発信を容易、迅速に行えるものが得られる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1～請求項3の発明の実施例による携帯電話機の基本構成を示す外観図である。

【図2】請求項1の発明の実施例における携帯電話機の着信時の動作を示すフローチャートである。

【図3】請求項2の発明の実施例における携帯電話機の発信動作を示すフローチャートである。

【図4】請求項3の発明の実施例における携帯電話機の他の発信動作を示すフローチャートである。

【図5】従来の携帯電話機を示す外観図である。

【符号の説明】

- 1 受話器
- 2 表示部
- 3 数字ボタン
- 4 呼出ボタン
- 6 終了ボタン
- 7 電源スイッチ
- 8 フリップ
- 9 フリップ開放兼用通話開始ボタン
- A 電話機本体

【手続補正2】

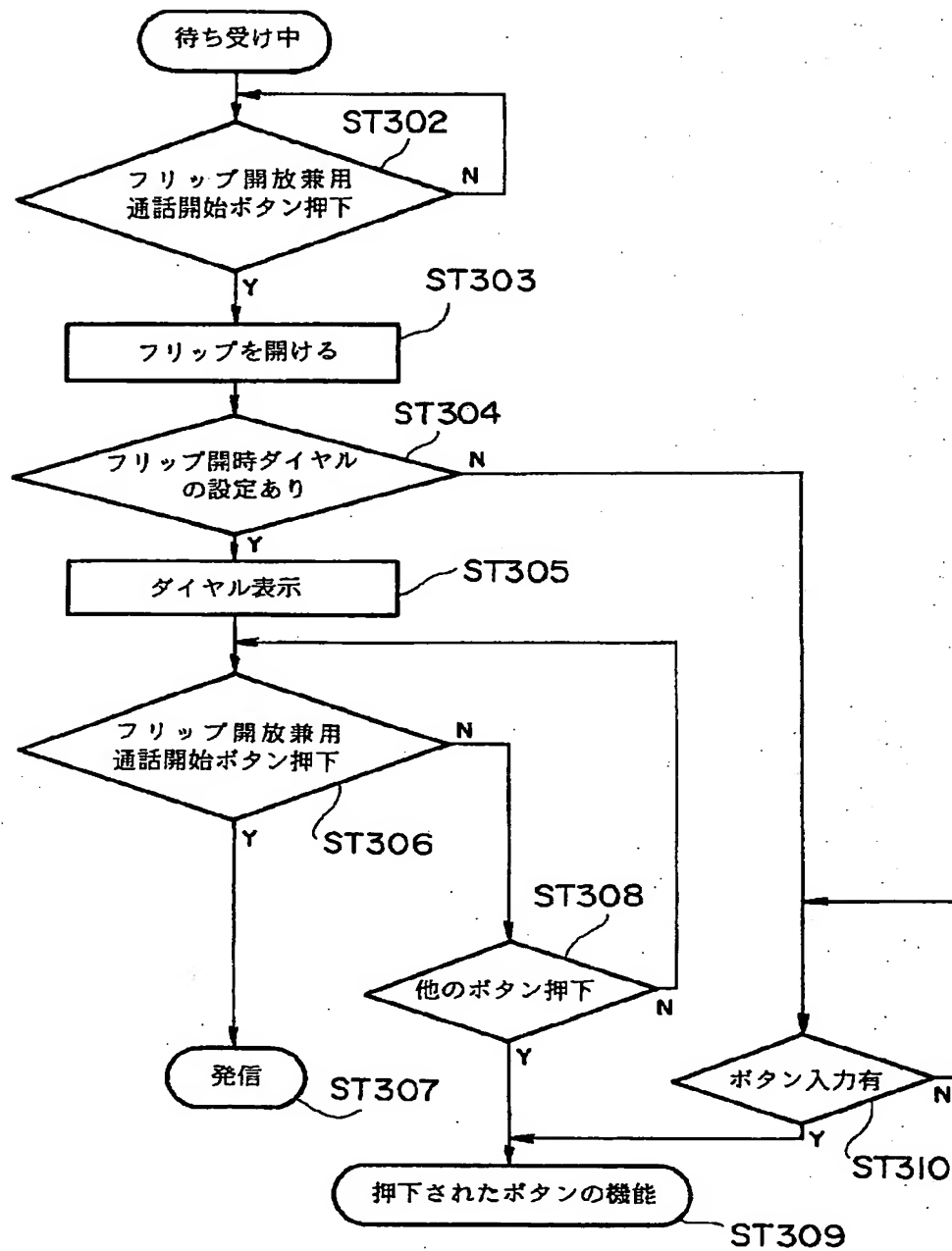
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図3

【補正方法】変更

【補正内容】

【図3】



【手続補正3】

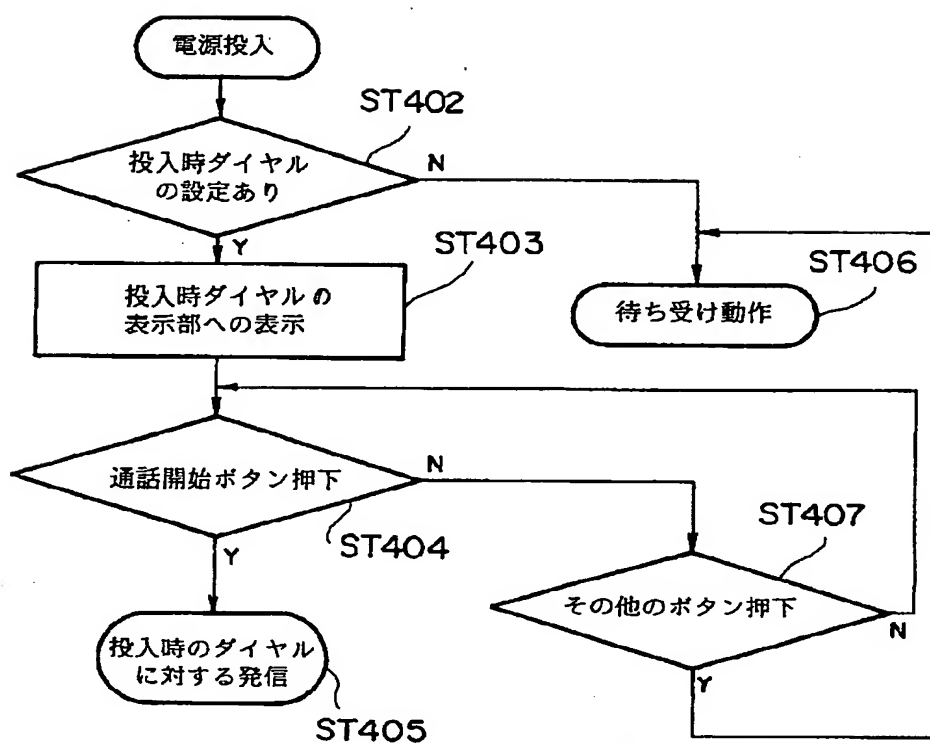
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図4

【補正方法】変更

【補正内容】

【図4】



【手続補正4】
 【補正対象書類名】図面

* 【補正対象項目名】図6
 * 【補正方法】削除

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁶
 H04Q 7/38

識別記号 片内整理番号

7304-5K

F I

H04B 7/26

技術表示箇所

109 H

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成10年(1998)10月23日

【公開番号】特開平7-74806
 【公開日】平成7年(1995)3月17日
 【年通号数】公開特許公報7-749
 【出願番号】特願平5-159622
 【国際特許分類第6版】

H04M 1/03

1/00

H04Q 7/32

7/38

【F I】

H04M 1/03 A

1/00 N

H04B 7/26 V

109 C

109 H

【手続補正書】

【提出日】平成6年2月1日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯電話機

【特許請求の範囲】

【請求項1】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることにより上記フリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項2】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることにより上記フリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を上記表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項3】 受話器および電話番号等の情報の表示部を有する電話機本体に、通話時以外には、該電話機本体上の数字ボタン、呼出ボタンおよびマイクを覆うフリップを開閉自在に設けた携帯電話機において、上記電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を上記表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けたことを特徴とする携帯電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、電話機本体に対して開閉自在のフリップを設けた携帯電話機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】図5は従来の携帯電話機を示す外觀図であり、図において、Aは電話機本体、1は電話機本体Aに設けられて相手方音声を聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部、3はダイヤル操作等をするための数字ボタン、4は電話番号を呼び出すときに押下する呼出ボタン、5は電話を発信するとき、また、着信時に電話を受けるときに押下する発信ボタンである。

【0003】また、6は通話を終了するときに押下する終了ボタン、7は電源をオン、オフするための電源スイッチ、8は着信時に電話機本体Aに対して開くだけで通話を開始し、また通話終了時に閉じると電話が切れ、待ち受け状態に戻るフリップである。

【0004】次に動作について説明する。まず、かかる携帯電話機の使用に当っては、相手の電話番号を呼び出すために、アンテナ11を伸ばし、さらにフリップ8を開き、電源スイッチ7をオン操作する。次に、フリップ8によって開かれた電話機本体A上の数字ボタン3をダイヤル操作（ブッシュ操作）し、表示部2で番号確認を行った上で、発信ボタン5を操作する。

【0005】こうすることにより、電話機本体Aは相手の電話番号を呼出信号として相手電話機へ送信し、相手はその呼出信号を受信して受話器1をオフフックすることにより、その相手との通話を開始可能にする。また、メモリダイヤルに登録した電話番号を呼び出す場合には、呼出ボタン4を操作した後、その登録した電話番号の短縮されたメモリ番号を数字ボタン3などを用いて入力し、続いて発信ボタン5を操作することで、初めて通話可能なモードとなる。

【0006】一方、フリップ8が閉じられている状態で相手方から電話の呼び出しがあると、つまり着信音があった場合には、そのフリップ8の開放操作によって、直ちに自動的に通話状態に入ることができる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】従来の携帯電話機は以上のように構成されているので、フリップ8が閉じているときに着信したとき、フリップ8を開けると、自動的に通話状態になるため、その着信に対する応答保留、すなわち、着信に対して携帯電話機の操作者がすぐに応答できない状態にある時に、一時的に通話開始を保留し、後に通話開始を可能にする機能ボタンの押下により通話を開始するという機能を実現できないなどの問題点があった。

【0008】また、待ち受け時には、フリップ8を閉じた状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、まず、フリップ8を開け、さらに、呼出ボタン4と数字ボタン3の組み合わせでメモリダイヤルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタン5を押下する必要があるなどの問題点があった。

【0009】さらに、従来の携帯電話機では、電源オフの状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、電源をオンにするための電源スイッチ7をまず操作し、呼出ボタン4と数字ボタン3の組み合わせでメモリダイヤルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタン5を押下する必要があるなどの問題点があった。

【0010】請求項1の発明は以上のような問題点を解消するためになされたものであり、フリップを開けても、着信に対する応答を保留することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0011】請求項2の発明は同一ボタンの2回目の操作のみでフリップを閉じた状態から特定の電話番号に対して発信し、かつ通話することができる携帯電話機を得

ることを目的とする。

【0012】請求項3の発明は電源オンの操作と1つのボタン操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることによりフリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けたものである。

【0014】請求項2の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることによりフリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けたものである。

【0015】請求項3の発明に係る携帯電話機は、電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けたものである。

【0016】

【作用】請求項1の発明における携帯電話機は、フリップを開けても直ちに通話開始モードとせず、終了ボタンの操作によって着信に対する応答を保留可能にする。

【0017】請求項2の発明における携帯電話機は、同一のフリップ開放兼用通話開始ボタンの2回目の操作によって、フリップを閉じた状態から特定の電話番号に対し発信および通話を可能にする。

【0018】請求項3の発明における携帯電話機は、電源スイッチの操作および通話開始ボタンの操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信を行えるようにする。

【0019】

【実施例】

実施例1. 以下、請求項1の発明の実施例を図について説明する。図1において、Aは電話機本体、1は電話機本体Aに設けられて相手方音声を聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部、3はダイヤル操作等をするための数字ボタン、4は電話番号を呼び出すときに押下する呼出ボタンである。

【0020】また、6は通話を終了するときに押下する終了ボタン、7は電源スイッチまたは等価な機能を有するスライドスイッチである。この実施例では電源スイッチとする。9はフリップ8を開けるボタンであるとともに

に、フリップ8が開いているときには開始ボタンとして機能するフリップ開放兼用通話開始ボタンである。

【0021】次に動作について、図2のフローチャートに沿って説明する。まず、フリップ8を閉じた状態で着信があったときには、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST202）、フリップ8が開く（ステップST203）。ここで終了ボタン6を押下すると（ステップST204）、応答保留動作に入り（ステップST207）、フリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST205）、通話が開始可能となる（ステップST206）。

【0022】一方、上記のような応答保留動作中に（ステップST207）、フリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると、応答保留を解除して、通話が開始可能となる（ステップST206）。また、上記応答保留動作中に再び終了ボタン6を押下すると（ステップST209）、通話が放棄され（ステップST210）、待ち受け動作に入る（ステップST211）。

【0023】実施例2、図3は請求項2の発明を実施するフローチャートである。ここでは携帯電話機における待ち受け中にフリップ8を閉じた状態から、特定の電話番号へ発信する時の動作を説明する。待ち受け中において、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST302）、フリップ8が開く（ステップST303）。

【0024】この時に、予めフリップ8が開いたときにかける電話番号（これをフリップ開時ダイヤルと呼ぶ）が設定されていれば（ステップST304）、その番号を表示部2に表示し（ステップST305）、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST306）、そのダイヤルの発信動作を行う（ステップST307）。

【0025】もし、使用者が上記ダイヤル表示の時に、フリップ開放兼用通話開始ボタン9以外のボタンを押下した場合には（ステップST308）、押下されたボタンに割り当てられた機能を実行し（ステップST309）、フリップ開時ダイヤルに対する発信は行わない。

【0026】また、フリップ開時に上記ダイヤルの設定がなされていなければ、ボタン入力待ちになり（ステップST310）、一般の待ち受け動作時のボタン入力待ちと同じになる。

【0027】実施例3、図4は請求項3の発明を実施するフローチャートである。ここでは、電源投入時に指定された番号を表示し、発信までの操作を容易にする。まず、電源投入時に、予め発信先として登録されている電話番号（これを投入時ダイヤルと呼ぶ）が設定されているか否かを調べ（ステップST402）、設定されているならばその番号を表示部2に表示する（ステップST403）。

【0028】そこで、その番号を使用者が確認して、上

記フリップ開放兼用通話開始ボタン9に代わる通話開始ボタンを押下すると（ステップST404）、投入時ダイヤルに対して発信する（ステップST405）。また、ステップST402において投入時ダイヤルが設定されていなければ、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0029】また、ステップST403の投入時ダイヤルの表示に対して使用者が通話開始ボタン以外のボタンを押下した場合は（ステップST407）、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0030】なお、上記実施例3の電源投入時にメモリダイヤルを呼び出す機能に関しては、フリップ8を有しない携帯電話機においても同様の効果を奏することは言うまでもない。

【0031】

【発明の効果】以上のように、請求項1の発明によれば、電話機本体に、着信時に1回目の操作をすることによりフリップを開放可能にし、2回目の操作をすることにより通話を可能にするフリップ開放兼用通話開始ボタンと、該フリップ開放兼用通話開始ボタンの上記1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンとを設けるように構成したので、着信時に1つのボタンの2回押下で、通話開始モードへ迅速に導入でき、また、1回押下のあと終了ボタンの押下により、着信の応答を保留できるものが得られる効果がある。

【0032】請求項2の発明によれば、電話機本体に、待ち受け中に1回目の操作をすることによりフリップを開放するとともに、メモリダイヤルに登録された電話番号を表示部に表示させ、2回目の操作をすることにより、上記表示された電話番号に対して発信を行わせるフリップ開放兼用発信ボタンを設けるように構成したので、予めよくかける電話番号をフリップ開時ダイヤルに登録しておくだけで、フリップが閉じた状態におけるフリップ開放兼用通話開始ボタンの2回押下により、フリップの開動作と登録された番号への発信が容易、迅速に行えるものが得られる効果がある。

【0033】請求項3の発明によれば、電話機本体に、電源投入時に操作され、この操作時に予め登録してある発信先の電話番号を表示部に表示させる電源スイッチと、該電源スイッチの操作に続く操作によって上記表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせる通話開始ボタンとを設けるように構成したので、予めよくかける電話番号を投入時ダイヤルに登録しておくだけで、電源がオフの状態における電源投入動作と開始ボタンの押下のみで、登録された番号への発信を容易、迅速に行えるものが得られる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1～請求項3の発明の実施例による携帯電話機の基本構成を示す外観図である。

【図2】請求項1の発明の実施例における携帯電話機の

着信時の動作を示すフローチャートである。

【図3】請求項2の発明の実施例における携帯電話機の発信動作を示すフローチャートである。

【図4】請求項3の発明の実施例における携帯電話機他の発信動作を示すフローチャートである。

【図5】従来の携帯電話機を示す外観図である。

【符号の説明】

- 1 受話器
- 2 表示部
- 3 数字ボタン
- 4 呼出ボタン

- * 6 終了ボタン
- 7 電源スイッチ
- 8 フリップ
- 9 フリップ開放兼用通話開始ボタン
- A 電話機本体

【手続補正2】

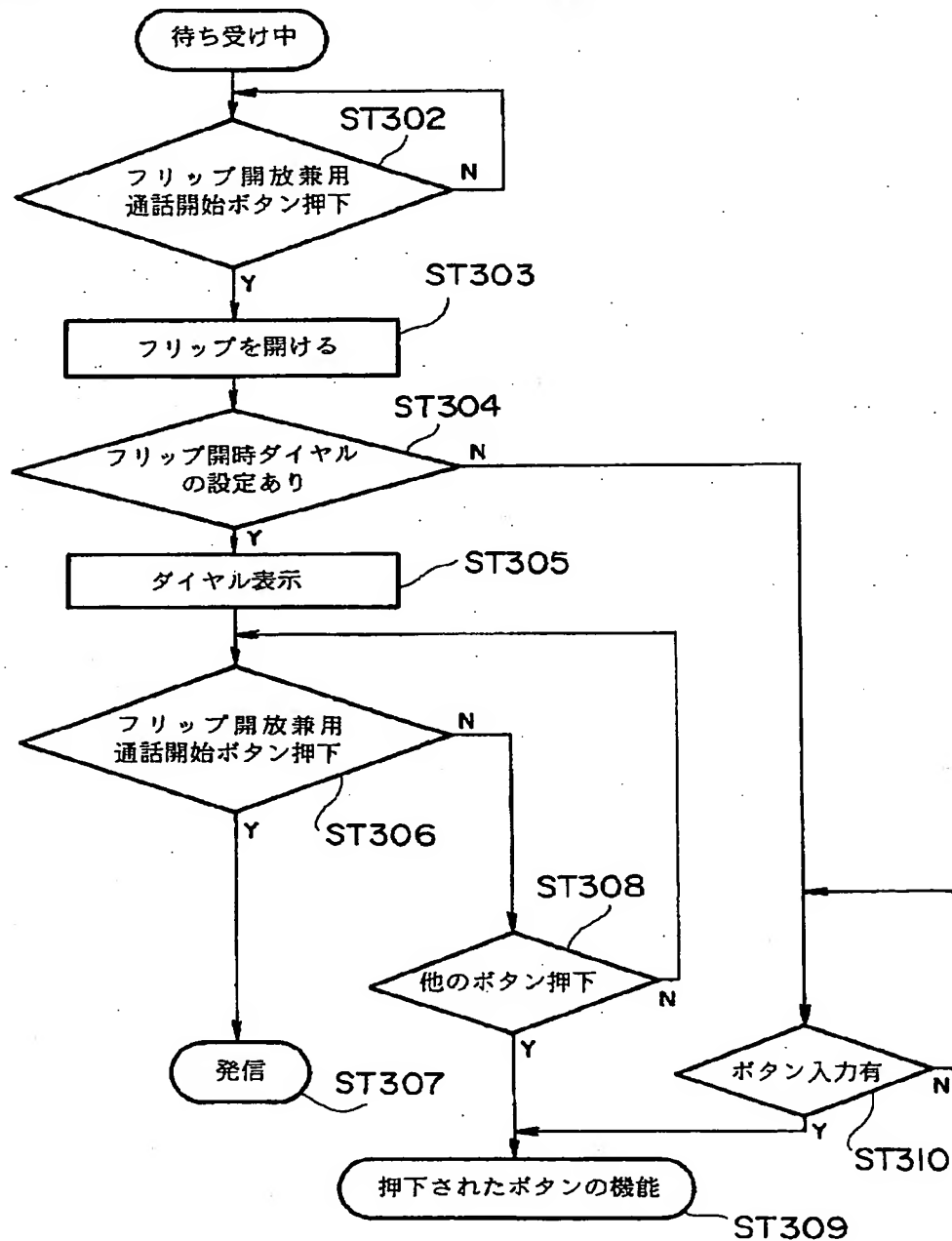
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図3

【補正方法】変更

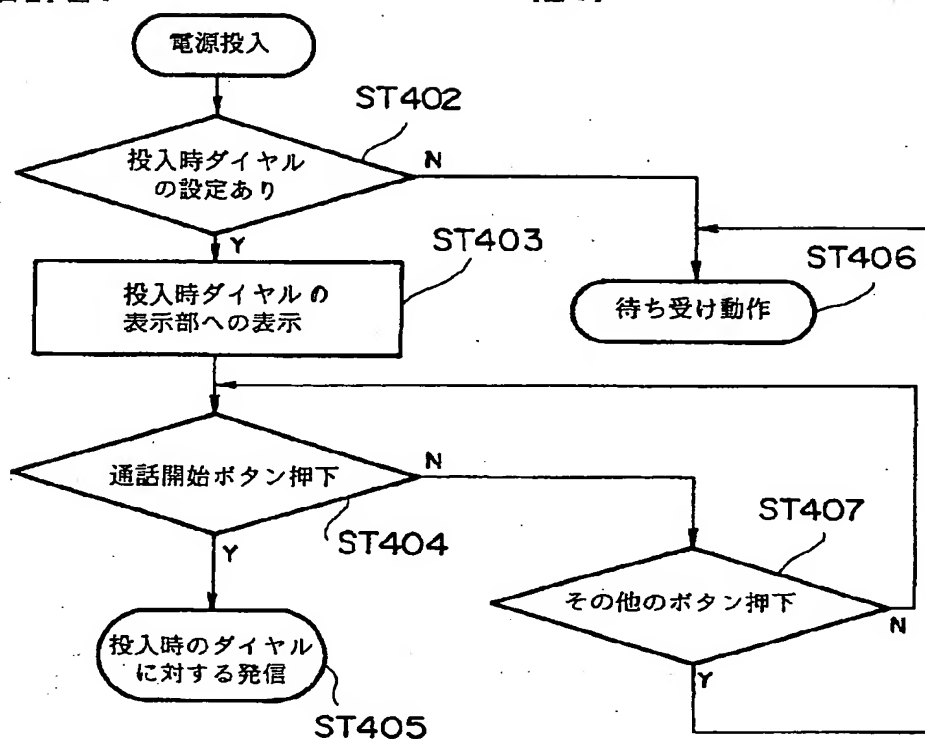
【補正内容】

* 【図3】



【手続補正3】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図4

*【補正方法】変更
 【補正内容】
 *【図4】



【手続補正4】
 【補正対象書類名】図面

*【補正対象項目名】図6
 *【補正方法】削除

【手続補正書】

【提出日】平成9年3月18日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】携帯電話機

【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1及び第2部材を備え、該第2部材を上記第1部材に対して開閉可能に構成した携帯電話機において、着信時に1回目の操作をすることにより上記第2部材を上記第1部材に対して開放し、2回目の操作をすることにより通話を可能にする開放ボタンを備えたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項2】 開放ボタンの1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンをも備えたことを特徴とする請求項1記載の携帯電話機。

【請求項3】 第1及び第2部材を備え、該第2部材を上記第1部材に対して開閉可能に構成した携帯電話機に

おいて、1回目の操作をすることにより上記第2部材を上記第1部材に対して開放する開放動作に連動して、予め登録された電話番号を上記第1部材に設けられた表示部に表示させる開放ボタンを備えたことを特徴とする携帯電話機。

【請求項4】 2回目の開放ボタンの操作をすることにより、表示された電話番号に対して発信を行わせることを特徴とする請求項3記載の携帯電話機。

【請求項5】 表示部が設けられた携帯電話機において、電源投入の操作をすることにより、予め登録してある送信先の電話番号を上記表示部に表示させることを特徴とする携帯電話機。

【請求項6】 電源投入の操作に続いて通話開始ボタンを操作によって表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせることを特徴とする請求項5記載の携帯電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、電話機本体に対して開閉自在のフリップを設けた携帯電話機に関するもので

ある。

【0002】

【従来の技術】図5は従来の携帯電話機を示す外觀図であり、図において、Aは電話機本体、1は電話機本体Aに設けられて相手方音声を聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部である。

【0003】また、6は通話を終了するときに押下する終了ボタン、7は電源をオン、オフするための電源スイッチ、8は着信時に電話機本体Aに対して開くだけで通話を開始し、また通話終了時に閉じると電話が切れ、待ち受け状態に戻るフリップである。

【0004】次に動作について説明する。まず、かかる携帯電話機の使用に当っては、相手の電話番号を呼び出すために、アンテナ11を伸ばし、さらにフリップ8を開き、電源スイッチ7をオン操作する。次に、フリップ8によって開かれた電話機本体A上の数字ボタン（図示せず）をダイヤル操作（ブッシュ操作）し、表示部2で番号確認を行った上で、発信ボタン（図示せず）を操作する。

【0005】こうすることにより、電話機本体Aは相手の電話番号を呼出信号として相手電話機へ送信し、相手がその呼出信号を受信して受話器1をオフフックすることにより、その相手との通話を開始可能にする。また、メモリダイヤルに登録した電話番号を呼び出す場合には、呼出ボタン（図示せず）を操作した後、その登録した電話番号の短縮されたメモリ番号を数字ボタンなどを用いて入力し、続いて発信ボタンを操作することで、初めて通話可能なモードとなる。

【0006】一方、フリップ8が閉じられている状態で相手方から電話の呼び出しがあると、つまり着信音があった場合には、そのフリップ8の開放操作によって、直ちに自動的に通話状態に入ることができる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】従来の携帯電話機は以上のように構成されているので、フリップ8が閉じているときに着信したとき、フリップ8を開けると、自動的に通話状態になるため、その着信に対する応答保留、すなわち、着信に対して携帯電話機の操作者がすぐに応答できない状態にある時に、一時的に通話開始を保留し、後に通話開始を可能にする機能ボタンの押下により通話を開始するという機能を実現できないなどの問題点があった。

【0008】また、待ち受け時には、フリップ8を閉じた状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、まず、フリップ8を開け、さらに、呼出ボタンと数字ボタンの組み合わせでメモリダイヤルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタンを押下する必要があるなどの問題点があった。

【0009】さらに、従来の携帯電話機では、電源オフの状態からメモリされたダイヤルに発信するためには、

電源をオンにするための電源スイッチ7をまず操作し、呼出ボタンと数字ボタンの組み合わせでメモリダイヤルを呼び出して表示部2に表示させ、確認した後に、発信ボタンを押下する必要があるなどの問題点があった。

【0010】この発明は以上のような問題点を解消するためになされたものであり、フリップを開けても、着信に対する応答を保留することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0011】また、この発明は同一ボタンの2回目の操作のみでフリップを閉じた状態から特定の電話番号に対して発信し、かつ通話することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0012】さらに、この発明は電源オンの操作と1つのボタン操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信することができる携帯電話機を得ることを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明に係る携帯電話機は、着信時に1回目の操作をすることにより第2部材を第1部材に対して開放し、2回目の操作をすることにより通話を可能にする開放ボタンを備えたものである。

【0014】請求項2の発明に係る携帯電話機は、開放ボタンの1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンをも備えたものである。

【0015】請求項3の発明に係る携帯電話機は、1回目の操作をすることにより第2部材を第1部材に対して開放する開放動作に連動して、予め登録された電話番号を第1部材に設けられた表示部に表示させる開放ボタンを備えたものである。

【0016】請求項4の発明に係る携帯電話機は、2回目の開放ボタンの操作をすることにより、表示された電話番号に対して発信を行わせるものである。

【0017】請求項5の発明に係る携帯電話機は、電源投入の操作をすることにより、予め登録してある送信先の電話番号を上記表示部に表示させるものである。

【0018】請求項6の発明に係る携帯電話機は、電源投入の操作に続いて通話開始ボタンを操作によって表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせるものである。

【0019】

【作用】請求項1の発明における携帯電話機は、開放ボタンを2回操作することにより、第2部材の開放及び着信応答を行う。

【0020】請求項2の発明における携帯電話機は、フリップを開けても直ちに通話開始モードとせずに、終了ボタンの操作によって着信に対する応答を保留可能にする。

【0021】請求項3の発明における携帯電話機は、第2部材を開放する開放動作に連動して、第1部材に設け

られた表示部に相手先電話番号を表示可能にする。

【0022】請求項4の発明における携帯電話機は、同一の開放ボタンの2回目の操作によって、第2部材を閉じた状態から特定の電話番号に対し発信および通話を可能にする。

【0023】請求項5の発明における携帯電話機は、電源投入動作により、表示部に相手先電話番号を表示可能にする。

【0024】請求項6の発明における携帯電話機は、電源スイッチの操作および通話開始ボタンの操作のみで、電源オフの状態から特定の電話番号に対して発信を行えるようにする。

【0025】

【実施例】

実施例1. 以下、請求項1の発明の実施例を図について説明する。図1において、Aは電話機本体、1は電話機本体A（第1部材）に設けられて相手方音声を聞くための受話器、2は電話番号等の情報を表示する表示部、3はダイヤル操作等をするための数字ボタン、4は電話番号を呼び出すときに押下する呼出ボタンである。

【0026】また、6は通話を終了するときに押下する終了ボタン、7は電源スイッチまたは等価な機能を有するスライドスイッチである。この実施例では電源スイッチとする。9はフリップ8を開けるボタンであるとともに、フリップ8が開いているときには開始ボタンとして機能するフリップ開放兼用通話開始ボタン（開放ボタン）である。

【0027】次に動作について、図2のフローチャートに沿って説明する。まず、フリップ8を閉じた状態で着信があったときには、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST202）、フリップ8が開く（ステップST203）。ここで終了ボタン6を押下すると（ステップST204）、応答保留動作に入り（ステップST207）、フリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST205）、通話が開始可能となる（ステップST206）。

【0028】一方、上記のような応答保留動作中に（ステップST207）、フリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると、応答保留を解除して、通話が開始可能となる（ステップST206）。また、上記応答保留動作中に再び終了ボタン6を押下すると（ステップST209）、通話が放棄され（ステップST210）、待ち受け動作に入る（ステップST211）。

【0029】実施例2. 図3は請求項2の発明を実施するフローチャートである。ここでは携帯電話機における待ち受け中にフリップ8を閉じた状態から、特定の電話番号へ発信する時の動作を説明する。待ち受け中において、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST302）、フリップ8が開く（ステップST303）。

【0030】この時に、予めフリップ8が開いたときにかける電話番号（これをフリップ開時ダイヤルと呼ぶ）が設定されていれば（ステップST304）、その番号を表示部2に表示し（ステップST305）、使用者がフリップ開放兼用通話開始ボタン9を押下すると（ステップST306）、そのダイヤルの発信動作を行う（ステップST307）。

【0031】もし、使用者が上記ダイヤル表示の時に、フリップ開放兼用通話開始ボタン9以外のボタンを押下した場合には（ステップST308）、押下されたボタンに割り当てられた機能を実行し（ステップST309）、フリップ開時ダイヤルに対する発信は行わない。

【0032】また、フリップ開時に上記ダイヤルの設定がなされていなければ、ボタン入力待ちになり（ステップST310）、一般の待ち受け動作時のボタン入力待ちと同じになる。

【0033】実施例3. 図4は請求項3の発明を実施するフローチャートである。ここでは、電源投入時に指定された番号を表示し、発信までの操作を容易にする。まず、電源投入時に、予め発信先として登録されている電話番号（これを投入時ダイヤルと呼ぶ）が設定されているか否かを調べ（ステップST402）、設定されているならばその番号を表示部2に表示する（ステップST403）。

【0034】そこで、その番号を使用者が確認して、上記フリップ開放兼用通話開始ボタン9に代わる通話開始ボタンを押下すると（ステップST404）、投入時ダイヤルに対して発信する（ステップST405）。また、ステップST402において投入時ダイヤルが設定されていなければ、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0035】また、ステップST403の投入時ダイヤルの表示に対して使用者が通話開始ボタン以外のボタンを押下した場合は（ステップST407）、通常の待ち受け動作に入る（ステップST406）。

【0036】なお、上記実施例3の電源投入時にメモリダイヤルを呼び出す機能に関しては、フリップ8を有しない携帯電話機においても同様の効果を奏することは言うまでもない。

【0037】

【発明の効果】以上のように、請求項1の発明に係る携帯電話機は、着信時に1回目の操作をすることにより第2部材を第1部材に対して開放し、2回目の操作をすることにより通話を可能にする開放ボタンを備えたので、着信時に1つのボタンの2回押下で、通話開始モードへ迅速に導入できる効果がある。

【0038】請求項2の発明に係る携帯電話機は、開放ボタンの1回目の操作に続く操作によって応答保留を可能にする終了ボタンをも備えたので、着信時に1つのボタンの2回押下で、通話開始モードへ迅速に導入できる

とともに、1回押下のあと終了ボタンの押下により、着信の応答を保留できるものが得られる効果がある。

【0039】請求項3の発明に係る携帯電話機は、1回目の操作をすることにより第2部材を第1部材に対して開放する開放動作に連動して、予め登録された電話番号を第1部材に設けられた表示部に表示させる開放ボタンを備えたので、予めフリップ開時ダイヤルに登録しておいたよくかける電話番号を、第2部材を開放するだけで第1部材の表示部に表示させることができ、登録された電話番号への発信が容易、迅速に行える効果がある。

【0040】請求項4の発明に係る携帯電話機は、2回目の開放ボタンの操作をすることにより、表示された電話番号に対して発信を行わせるので、予めよくかける電話番号をメモリに登録しておくだけで、フリップが閉じた状態における開放ボタンの2回押下により、フリップの開動作と登録された番号への発信が容易、迅速に行える効果がある。

【0041】請求項5の発明に係る携帯電話機は、電源投入の操作をすることにより、予め登録してある送信先の電話番号を上記表示部に表示させるので、予め投入時ダイヤルに登録しておいたよくかける電話番号を、電源を投入するだけで表示部に表示させることができ、登録された電話番号への発信を一層容易、迅速に行える効果がある。

【0042】請求項6の発明に係る携帯電話機は、電源投入の操作に続いて通話開始ボタンを操作によって表示部に表示された電話番号に対して発信を行わせるので、予めよくかける電話番号を投入時ダイヤルに登録しておくだけで、電源がオフの状態における電源投入動作と開始ボタンの押下のみで、登録された電話番号への発信を一層容易、迅速に行える効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例による携帯電話機の基本構成を示す外観図である。

【図2】この発明の実施例1における携帯電話機の着信

時の動作を示すフローチャートである。

【図3】この発明の実施例2における携帯電話機の実行動作を示すフローチャートである。

【図4】この発明の実施例3における携帯電話機の実行動作を示すフローチャートである。

【図5】従来の携帯電話機を示す外観図である。

【符号の説明】

- 1 受話器
- 2 表示部
- 3 数字ボタン
- 4 呼出ボタン
- 6 終了ボタン
- 7 電源スイッチ
- 8 フリップ
- 9 フリップ開放兼用通話開始ボタン(第2部材)

A 電話機本体(第1部材)

【手続補正2】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図5

【補正方法】変更

【補正内容】

【図5】

